

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.956
2022.4.10

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

とりうみ敏行 神田よしゆき
松村 としお とば めぐみ
久保 みき たけこし 連
金子 あきよ

障がい児の発達支援

保護者の願いに寄りそって

3月18日に総合療育センターひまわり学園の発達支援センターつぼみ（障がい児通所施設）に子どもが通う保護者と同学園職員が懇談し、とばめぐみ、松村としおの両市議が同席しました。

市内3カ所ある発達支援センターのうち「つぼみ」（西区）は肢体不自由児が利用しています。以前から党市議団に通所日数増や看護師増員の要望が寄せられ、議会質問でもとりあげてきました。今回は保護者と職員の懇談が初めて実現しました。

保護者からは「妊娠出産があると通えない」「通所時間も日数も短くて就労できず、保護者の経済負担が重い」「駐車場がせまく屋根もないので、雨の日の車いすの子どもの乗降が大変」「給食費など銀行振り込みを引き落としにしてほしい」など実情と要望が次々話されました。職員からは「看護師一人体制で保護者に迷惑をかけてしまった」と、看護師



懇談に参加する（左から3人目から）松村、とばの両市議

の増員や通所日数増にむけて取り組んでいることが明かされました。また「2年後に予定している大規模改修で、施設面での要望を検討したい」と答えました。

同席した松村市議は「行政の不十分さを親の負担で補っているのは問題。市はこうした懇談を継続して、保護者の願いに寄りそってほしい」と話しました。

障がい者施設はいま

コロナ禍を乗り越えられる 公的支援が必要



懇談に参加する（左から）とば、久保の両市議

3月30日、党市議団は「きょうされん」と懇談し、久保みき、とばめぐみの両市議が参加しました。「きょうされん」は、障害のある人たちが地域で働く・活動する・生活することを応援する事業所の全国組織です。

いままで当たり前におこなっていたコミュニケーション方法は新型コロナによって否定され、マスクの着用の強要は障がいの重い人びとにとっては困難極まりない毎日です。濃厚接触でしか成り立たないケア労働の現場でもある障がい者施設では、クラスター発生の恐怖とたたかってきました。そして障がい者は基礎疾患を抱える方も多いため、新型コロナに感染すると重症化、死亡率などが高まります。

参加者からは「さいたま市では無料の障がい者施設等へのPCR検査は、職員、新規入所に限られているため、どこの法人も利用者（障がい者）の検査は持ち出しになり、第6

波では500万円にもなった」と語られました。久保市議は「利用者すべて検査対象にすべき」と応じました。また、家族が感染し障がい者が濃厚接触者となった場合、感染している家族が障がい者をケアすることは不可能です。そこへの手立てはないに等しく、県のケアラー支援のなかで、かたちはできているが機能していない実態が語られました。

いま、計り知れない苦難のなかで、エッセンシャルワーカーは「おだてられ労働」を強いられています。久保市議は、「平時からの職員体制を引き上げて、安心して働けるしくみが求められる」と話しました。

2月議会報告動画をご覧ください

YouTube 日本共産党さいたま市議団 検索



さいたま市の新年度予算 問題点を解説
(金子あきよ市議)



市長の「核共有」議論容認発言は ゆるされない

3月3日に行われた清水勇人市長の定例記者会見における発言についての党市議団の見解を掲載いたします。

市長の回答に対する見解

日本共産党さいたま市議団 団長 鳥海 敏行

清水勇人市長は、3月3日の市長記者会見において、与野党の間で出ている「核シェアリング（核共有）」についてどう受け止めているかと問われ、「議論がなされることについて特に否定するものではありません」と述べ、問題となっている同盟国との核共有議論を容認するような態度を示した。3月18日、党市議団としてこの発言には重大な疑義があることから、市長発言の真意を明らかにするよう質問書を提出した。これに対し市長から、「(核共有)議論については、それぞれの考えに基づき発言がなされているも

のとの認識から、その発言について、肯定も否定もしないとの立場からの発言となったものです」「非核三原則の考えのもと、平和都市を宣言しているさいたま市の首長として、戦争の悲惨さ、おろかさ、平和の尊さ、大切さを後世に伝えていくために、引き続き事業に取り組んでまいります」との回答が寄せられた。

党市議団は、「核共有」論はいうまでもなく非核三原則を根底から否定するものであり、世界で唯一の被爆国となった日本国民の核廃絶への願いと、世界の流れに背く議論で

まな議論がなされることについてとくに否定するものではありません。

埼玉新聞 議論を否定するつもりはないというのは、非核三原則も議論の対象だという意味ですか。

市長 基本的にはそれを守るべきだと思っておりますが、議論そのものをしないほうがいいという考え方は持っていないということです。

●記者会見での発言（抜粋）

埼玉新聞 ウクライナ情勢ですけれども、プーチン大統領の核抑止力の話が出て、与野党の間で核シェアリングという話が出ていますけれども、その受け止めをお願いいたします。

市長 核シェアリングについては、基本的な日本の考え方として非核三原則がございますので、それを守っていくという考え方が基本であると思っておりますが、さまざま

質問書に対する回答

市長 清水 勇人

2022年3月18日付けご質問について、次のとおりご回答いたします。
令和4年3月3日の市長定例記者会見において、国における核シェアリングの質問をいただきました。

定例記者会見で発言したとおり、核シェアリングについて、日本の基本的な考えとして、非核三原則があることから、これを守っていくという考えを私も共有しております。

一方、様々な方から、様々な議論が持ち上がっていることは、メディアなどを通じて承知しているところです。

その議論については、それぞれの考えに基づき、発言がなされているものとの認識から、その発言について、肯定も否定もしないとの立場から、記者会見での発言となったものです。

私としては、非核三原則の考えのもと、平和都市を宣言しているさいたま市の首長として、戦争の悲惨さ、おろかさ、平和の尊さ、大切さを後世に伝えていくために、引き続き事業に取り組んでまいります。

あることを厳しく指摘せざるを得ない。ロシアによるウクライナ侵略を機にこのような議論をしようとすることは断じて許されるものではない。

市長においては、非核三原則を守るというのであれば、「核共有」発言を肯定も否定もしないとの立場ではなく、「核共有」論そのものが核兵器廃絶を求める日本国民の願いと世界の流れに逆行する危険な議論であること

を明確に発信すべきである。

同時に、人類が核戦争の危機から免れるためには、すべての核兵器をなくすしかない。そのためにも、日本政府に対しては1日も早く「核兵器禁止条約」への署名、批准をすよう強く求めるべきである。

日本共産党さいたま市議団は、核兵器廃絶に向けて市民のみならずとともに取り組む決意を改めてここに表明するものである。

あなたの身近な議員です



市議(浦和区) とりうみ 敏行



市議(緑区) 松村 としお



市議(桜区) 久保 みき



市議(南区) 金子 あきよ



市議(北区) 神田 よしゆき



市議(見沼区) とばめぐみ



市議(中央区) たけこし 連